

夏の昆虫 “セミ” ウオッチング！！

本橋 綾香

今回は、身近な山や公園で観察することができるセミの生態の話をしてしたいと思います。

セミがいることに気づくのは、まずは大きな鳴き声ではないでしょうか。鳴き声が聞こえる時期には、おおよその順番があります。梅雨時の晴れ間に「ジーイー」というニイニイゼミの音が聞こえ始めると、セミたちの季節の到来です。あつという間に暑さの盛りになり、アブラゼミの「ジリジリジリ…」という



木に口を刺し込むアブラゼミ

声や、ミンミンゼミの「ミンミンミン」という声が聞こえ始め、夕方や朝方の涼しい時間帯にはヒグラシの「カナカナカナ…」という声が聞こえるようになります。ツクツクボウシの「オーシーツクツク」という声が聞こえるようになると、夏も終わりに近づいてきます。

鳴き声を出すのは、雄のセミです。鳴いているセミをよく見ると、羽を少し開き、胸のあたりを動かしています。これは、胸のすぐ下にある筋肉を伸び縮みさせて、音を出すための膜をふるわせているからです。セミのお腹はほとんどが空洞なので、鳴き声はお腹の中で響いてとても大きく聞こえます。



産卵するミンミンゼミ

雄の鳴き声に引き寄せられ、無事に交尾した雌のセミは、おしりの下にある産卵管という小さな管を枯れ木などに刺し込んで、穴の中にいくつもの細長い卵を産みつけます。この産卵管は、セミの抜け殻でも、雄と雌を区別するときの目印になります。

また、羽を閉じて木の幹にじっと止まっているセミは、よく見ると長いストローのような口を木に刺し込んでいることがあります。これは木の汁を吸って食事をしているところです。セミの抜け殻にも、同じような長い口がついています。長い間を地面の下で過ごす幼虫のときも、木の根っこに口を突き刺して汁を吸っているためです。



アブラゼミの抜け殻
(長いストローのような口が見える)

セミの種類によっては、好む環境や樹種に違いがあると言われています。例えば、ニイニイゼミは木が多くて暗い林を好むそうです。筆者が7月に多峯主山を歩いたとき、林の下のジャノヒゲの株にニイニイゼミの抜け殻だけが5つもついているのを見つけたことがあります。アブラゼミはサクラやケヤキを好みます。そのためケヤキが植えられている神社では、毎年多くのアブラゼミの抜け殻を見ることができます。

セミの抜け殻は、見つけることが簡単で、形がしっかりしているので観察がしやすく、“セミ” ウオッチングにはお勧め

です。

身近にたくさんいる昆虫の生活に、ちょっと目を向けてみてはいかがでしょうか。